

マムダニ市長  
のもとで

ニューヨーク  
レポート

# 対話し つながって 連帯の力で社会を変える

核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けた行動で訪れたアメリカ・ニューヨーク(5月23日号1、2面既報)。5月1日の

新婦人副会長・国際部長 平野恵美子



NY市内のメーデーデモ行進。NPT再検討会議参加の日本代表団も一緒に歩いた

メーデーは、現地を迎えました。メーデーのストーガンは、「ノー・ウォー」

、ノー・アイス(移民税関捜査局)、ノー・ビリオネア(超富裕層)。会場となった市内の公園には「トランプは去れ」「今すぐ停戦」「戦争ではなく教育にお金を」などプラカードが並びます。

圧巻は、民主社会主義者を公言して就任したゾーラン・マムダニ市長のスピーチでした。登場と同時に歓声がわきおこり、市長の「団結した民衆、組織化された民衆は決して打ち負かされない。ともに連帯とは何かを世界に示そう」との力強い訴えが響きわたりました。家賃凍結、無料のバスや保育所、市運営の食料品店開設、労働者や移民の保護、大企業・富裕層への課税強化など公約への期待はもちろん



メーデー参加者を励ますマムダニ市長

ですが、交流した高校の先生や平和活動家は共通して「市民の声を聞く市長になったことが希望」だと語っています。

## すべては 対話から

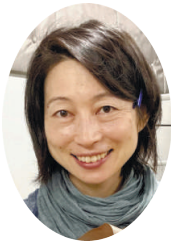
ニューヨークでは、全国労働組合総連合(全労連)とアメリカの組合連動の交流会がありました。そこで強調されたのは、オーガナイズ組織

すること。組合への加入を働きかけることとどまらず、職場の人や組合員でも関心のない人を巻き込んで運動をつくっていくことも含んでいます。運動をつくっていく上

で大事にしているのは対話で、相手の話を聞き、ともに考え、反戦平和や排外主義反対、ジェンダーなどさまざまな社会運動ともつながって連帯を築き、社会を変える運動を広げることだと、発言が相次ぎました。

反トランプの行動が全米に広がっているアメリカの変化を実感する、ニューヨーク訪問となりました。

## ずいそう



紀伊國屋ホールで上演する文士劇『風と共に去りぬ』は、出演者が全員、プロの作家という珍しい演出。作家の皆さまの演じる姿に魅了されたから、物書きの仕事は、自分を通して人間と向き合い続ける営みなのだと思えて気がかされる。「まさし

の効かない仕事なのだ。稽古の後には大抵飲み会が開かれ、数名が集つた多国籍料理を楽しむながらの談笑の席で、目の前にいた三田誠広さんが、芥川賞を取った直後に編集者から「これから売れる本は書くな」と言われた話をしてくれた。「昔はそういう編集者がいたんだよ」と隣で岳真也さんが「うんうん」と日本酒を飲みながらうなずく。

## 売れる本は書くな 五戸真理枝(演出家)

「売れる本は書くな」という言葉が妙にまぶしく響いた。演劇をやっている、いつも考えさせられることだ。ヒット作を作り出さなければ、劇団の存続が危ぶまれる。企画会議に参加すれば、売れ行きを最優先に考えている自分がある。他の劇団員もそう。真剣な協議の末に決まってくる演出が、自分本来の芸術的指針から少しずつ離れていく気が

してきて薄ら寒くなる。「売れる本は書くな」という編集者がいない時代を生きる作家の皆さま。一人ひとりの胸に文学への情熱の炎が見える。文化芸術にまで収益性が求められる時代だからこそ、文化芸術を守ろうとする気概がある人間が必要なのだ。文士劇の稽古場において、そんなことを考えた。私も演劇を守るための闘いを続けよう。そう思った。

## 編集部 から

班や小組での憲法まもるアクションが実に多彩。……行動、仲間との連帯があり、楽しい。アクションを続ける秘訣は「ついでに楽しむ」とある。(K)

## BOOK



明治のナイチンゲール 大関和物語 田中ひかる  
中央公論新社 840円+税



コスミック・ガール 宙わたる教室 伊与原新  
文藝春秋 1800円+税

連続テレビ小説「風薫る」の原案小説。現在、看護師は尊い職業と認知されているが、かつてカネのため命まで差し出す職業と見なされた。「看護師」などの中、2人は看護婦としての献身と女性の自立という問題で意見を戦わせる事も。彼女たちが道を切り開いた事で、今私たちが受けられる看護がある。

青春科学小説として話題となった『宙わたる教室』の続編。かつて快拳を成し遂げた「伝説」の東新宿定時制科学部は、6年後、消滅していた。ある決意から金も技術もないなか左那たちが考え出した口ケットとは？ 幾度も失敗しながら実験を重ねる過程は学ぶ喜びにあふれ、科学知識がな

明治のナイチンゲール大関和物語 田中ひかる

コスミック・ガール 宙わたる教室 伊与原新

## 代田知子さん おすすめの 子どもの本 大人もぜひ!



ガーजू先生 対馬丸事件を生きぬいた少女の物語 たじまゆきひこ 作 (小学校中学年~)



マユ12歳、鍛冶屋でくらしています。 福田隆浩 著 (小学校高学年~)



ポケットのないカンガルー エミイ・ペイン 作 H.A.レイ 絵 にしうちみなみ 訳 (幼児~)

今日は困難を生き抜く主人公の物語を。まずは、子どもと読んでほしい実話絵本『ガーजू先生 対馬丸事件を生きぬいた少女の物語』。日本の敗戦が重なり沖縄が戦場になることが決定的となった1944年、日本政府は戦争の邪魔になる子どもと年寄りや船で九州地方に疎開させる命令を出した。米潜水艦が沖縄近海で日本の軍艦を次つぎと沈めはじめていたのに、だ。そして8月22日、1788人(うち児童784人)を乗せた疎開船「対馬丸」が、鹿児島県沖で米潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没。当時9歳の平良啓子さんは、6日間いかに漂流し、無人島で救出され、運よく家に帰れたもののすぐに沖縄戦に巻き込まれる。「ガーजू」とは沖縄の方言で「頑固な人」「私の強い人

の意味。過酷な戦争を生き抜き、亡くなる直前まで語り部として平和教育を続けた啓子さんの半生を伝える。絵の中の子どもの力強い目が心に残る。『マユ12歳、鍛冶屋でくらしています。』は、学校にいけなくなった少女マユが、包丁や鎌を作ったり直したりする「野鍛冶」職人の叔父と暮らしはじめる物語。叔父の仕事ぶりや生き方にふれて変わっていく少女と、せかさずに見守る大人の姿が印象的だ。最後は新装版としてよみがえった絵本『ポケットのないカンガルー』。おなかにポケットがないので、坊やをどこにも連れていけないと悲しむ母親カンガルーが、良い解決方法を求めて挑戦するお話。文も絵もユーモアたっぷり元気が出てくる絵本。